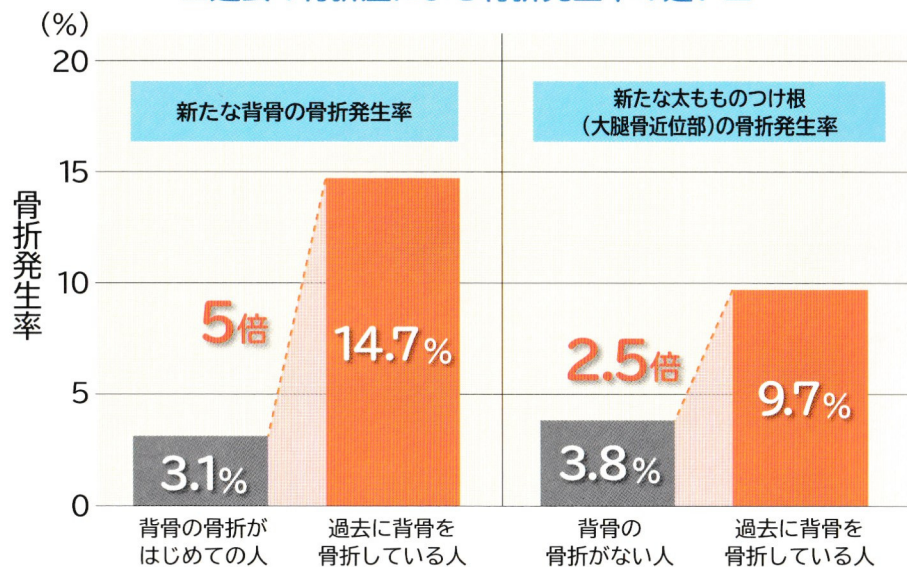


骨粗しょう症になると、骨折しやすくなります。

骨粗しょう症では、さまざまな部位の骨が骨折しやすくなります。骨粗しょう症で骨折が起こりやすい部位としては、背骨に加えて、手首や腕のつけ根、あしのつけ根などがあげられます。

そして、一旦骨折を起こすと、次の骨折が起こる危険性が高まることがわかっています。したがって、骨粗しょう症の治療では、最初の骨折を防ぐことも重要です。また、残念ながら骨折を起こしてしまったら、その次の骨折を防ぐことも大事です。

■過去の骨折歴による骨折発生率の違い■



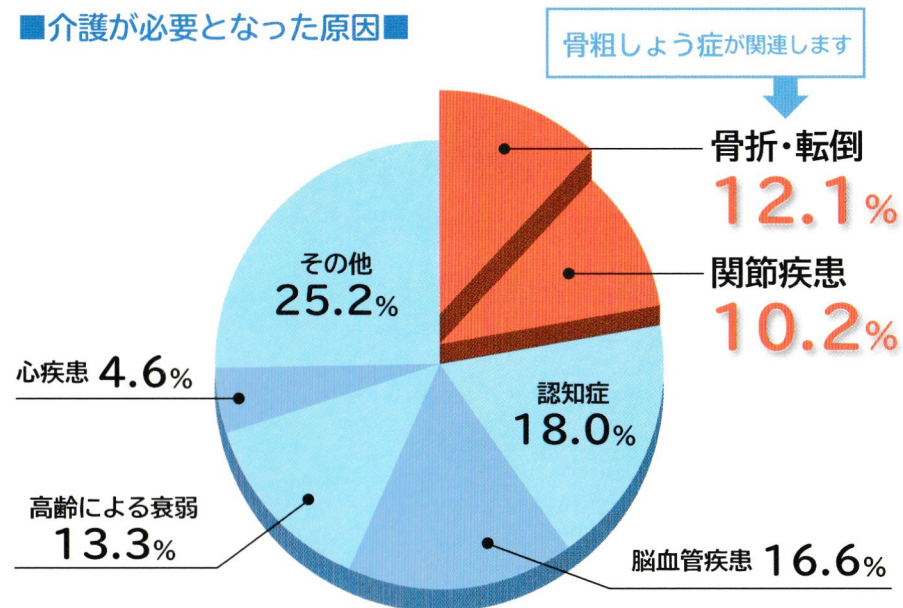
Black DM et al. J Bone Miner Res. 1999;14(5):821-828. より作図

骨粗しょう症は、寝たきり・要介護の大きな原因です。

骨粗しょう症の方が転倒するなどしてあしのつけ根を骨折した場合、手術や長期間のリハビリが必要となり、退院後も思うように動けない場合もあります。そのような生活は、身体さまざまな機能に支障をきたし、そのまま寝たきりの生活になってしまうことも少なくないのです。

厚生労働省の調査によると、要支援・要介護が必要になった原因として、「骨粗しょう症関連」が第1位にあがっています。骨粗しょう症が進行した場合、ご自身の生活が制限されるばかりか、ご家族にも大きな影響を及ぼすことになることがあります。

■介護が必要となった原因■



厚生労働省：平成28年国民生活基礎調査より作図